
因果応報ってやつですか？

真嶋雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

因果応報つてやつですか？

【ノード】

N2524D

【作者名】

真嶋雪

【あらすじ】

先日旅行から帰ってきた僕を急に呼び出した彼は、元気だったかという言葉もなしに急に切り出した。

(前書き)

4年位前に書いた奴です。
見返すのも恥ずかしいくらいまだまだ未熟な物ですが、よろしければ読んでみてください。

「ねえ、人間が進化したら何になると思つ?」

久々に会つた幼馴染の第一声は、久しぶりでも元気だつたかでもなくこの質問だつた。まあ彼が誰にも…それは幼馴染の僕に対してでも、元気だつたかなんていう相手を気遣うことをいわないのは知つてゐるけど。だけだ。だからつていきなりこんな質問はあんまりだろう。君の前にいるのはお隣に住むつい先日旅行から帰つてきた僕、なんだよ?

「…はあ?」

「だから、人間が進化したら…」

「それはもういい、もういいよ頬むからそれ以上言わないで。混乱する」

もう一度同じことを言おうとする彼を言葉とともに手で制して、あいてるもう片方の手で頭を抱える。「え、なんだつて? 人間が進化したら? しるかそんなもん。

「何だつていきなりそんな質問をするんだよ」

「急に疑問に思つたから」

急な疑問を僕にぶつけるな。

「じゃあさ、君はどうなの?」

「…僕?」

「そ、君の考え方」

「……候補としては二つ…かな。僕の中では」

「へえ。話してみてよ。興味出ってきた」

「ほんという咳払いを一つしたあと、目の前の幼馴染は口を開いた。

「一つ目は、そうだね。簡単に言つて環境に応じて進化する

「環境に応じて……どんな風に?」

「地球の未来を考えてみたらすぐ分かると思うよ。考えてみて

「地球の未来、ねえ」

未来を考える前には現状を考えた方がいいだろ? 「えー……なんだ、オゾンホールが、そうあって、そんで酸性雨に砂漠化、だよね。あとは……えっと地球温暖化? かな。

「そう、それ」

「温暖化がどうかしたの?」

「暖まつた地球はどうなるか、一個すぐ思いつくのがあるでしょう?」

「……あ、水位上昇?」

「あたり。だから、エラ呼吸でもできるようになるかなって思って」

「……エラ呼吸? 人間が?」

「まあこれは一説だけど、人間は進化してこうなったと言われてるじゃない」

「それはまあ、うん、そうだね」

（まつたくもってとりとめもないとは思うが）ありえない話ではないだろう。そう思いながらうなずいて、先を促す。

「それで、もう一つは何?」

「滅亡」

「……めつ、ぼお?」

「正しい発音は、めつぼうね。」

わざわざ一音一音区切りながらそういう言つと、「うん滅亡」と、さつきよりネガティブな話に変わっているのに間違いは無いのに彼の表情には一寸の変化も見当たらなかつた。動搖してるのは、僕自身であり同時に僕だけなのだ。

「まあいくつかに分かれるのだけれどね。1つは何も無いまま終わる。地球が沈む瞬間も見ないでね。」

ようするに人口の減少がさらに加速することだらう。これくらいは僕にもわかる。想像できる

現に日本人は年々人口が減つてきているのだから。

「もう1つはもしかしたら進化の可能性は残つていたかもしない

けれど、時間に間に合わずに入飲み込まれる

「海に？」

「海に」

「……うん。それも想像はつくね。あとは？」

「これが僕の想像の最後。進化する可能性もなく沈む。僕としてはこれが一番近いと思うけど」

どうかな、と聞く彼に無言で答えたあと、僕は一つだけ聞いてみた。

(後書き)

彼の答えもまた、無言だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2524d/>

因果応報ってやつですか？

2010年12月30日05時44分発行